

2025 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域 選抜試験（冬季）
博士後期課程（4 月入学）

科目 < 専門科目 >
時間 9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0

注意事項：

- ①解答は、配布された答案用紙に行うこと。不足した場合は、手を挙げて申し出て下さい。
- ②答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を、「氏名」欄に「氏名」を、「題目」欄に問題番号を記入してください。
- ③解答は、問題に指示がない限り日本語で行うこと。
- ④監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他、監督者の指示に従うこと）。

受験番号	氏名
------	----

自然災害には、地震災害、豪雨災害、火山災害、津波災害など様々なものがあるが、それらが単独で発生するのではなく、同時に、あるいは少しの時間差をおいて複数発生する「複合災害」が懸念されている。近年では東日本大震災（地震と津波）、能登半島地震（地震と豪雨）の経験が記憶に新しい。この複合災害について、以下の2点をそれぞれ700文字程度で論じなさい。解答にあたっては、具体的な複合災害を仮定してもよいし、すでに起こった複合災害を題材に論じてよい。

- (1) 災害が発生すると、応急対応、復旧、復興へとフェーズが進んでいくが、このうち、復興のフェーズに対して、複合災害はどういう影響を与えるのかについて、負の影響と正の影響にわけて論じなさい。
- (2) その正の影響を最大化し、負の影響を最小化するために、自治体や民間企業が災害前に取り組んでおくべきことを論じなさい。

以下の問に答えなさい。

問1 立地適正化計画の策定に関して、自然災害ハザードと居住誘導区域設定の考え方について説明しなさい。その際、下記の用語を用いること（200字程度）。

（用語：災害レッドゾーン、災害イエローゾーン）

問2 河川浸水ハザードエリアを対象とした居住誘導区域検討にあたって、どんなデータを用いて、どんな分析作業を行うべきか、用いるデータと作業分析内容を述べなさい（400字程度）。

問3 居住誘導区域内に災害ハザードエリアが存在する場合、災害リスクをできる限り回避あるいは低減させるため、立地適正化計画の「防災指針」に、必要な防災・減災対策を定めるものとされている。河川浸水ハザードを対象に、この「防災指針」での防災・減災対策の内容について、説明しなさい（400字程度）。

問1 社会老年学における以下の用語の中から4つ選び、それぞれ提唱者と概要を説明しなさい。尚、どの用語に関する説明なのかを記すこと。

- (1) 活動理論
- (2) 継続性理論
- (3) 離脱理論
- (4) コンボイモデル
- (5) 社会情動的選択理論
- (6) 課題特定モデルと階層的補完モデル
- (7) プロダクティブ・エイジング
- (8) ストレス・プロセス・モデル

問2 高齢者の社会参加・社会貢献活動を促進・阻害する要因として、どのようなものがあるのか、個人レベル、組織レベル、政策レベルの各レベルにおける要因をそれぞれ3つずつ挙げなさい。上記で指摘した要因を踏まえ、高齢者の社会参加・社会貢献活動を促進するために、どのような施策・取組が必要なのか述べなさい。施策・取組は既に実施されているものでも良いし、あなたが考えたものでも良い。